

新たな歴史に向かって

鳳エリア建替え運動の道 ⑫

「地域とのつながり」を

何よりも大切に

大阪民医連創設期から鳳病院まで看護師として貢献された東京京子さんにお聞きしました。



鳳病院退職後、風光明媚な和歌山県日高郡にお住いの東京京子さんのお宅を訪問させていただきました。94歳になった今も青春時代の思い出をありありと話してください

鳳病院退職後、風光明媚な和歌山県日高郡にお住いの東京京子さんのお宅を訪問させていただきました。94歳になった今も青春時代の思い出をありありと話してください

鳳病院退職後、風光明媚な和歌山県日高郡にお住いの東京京子さんのお宅を訪問させていただきました。94歳になった今も青春時代の思い出をありありと話してください

診察を支えてこられました。大阪民医連運動の草分けで関西民病連初代会長の岩井彌次院長、原爆詩人として有名な峠三吉さん(※)の兄・峠一夫事務長の呼びかけで全国各地から医師・看護師が開設に向けて協力、東京さんもその一人だったのです。その後、うえに病院(当時院長・桑原英武医師)に移りましたが、結婚を機に堺へ。20代で耳原病院に就職。1960年開設した耳原鳳診療所、結核病棟を有した耳原鳳分院(竹花義郎院長)を経て、現在鳳南町にある鳳病院のころまで長年にわたって地域での

れた東京さん。

今は自宅に集まってくる何匹もの地域猫と一緒に過ごすことが多いそうです。「命を思うと地域猫を放っておけないからね」と、ほほ笑む東京さん。インタビュを終え、みみはらグループに対する期待や思いは?との質問には「これからも地域との結びつき、つながりを何より大事にして欲しいですね」と繰り返し話されました。

※峠三吉

詩人。大阪府出身。広島で原爆に被爆し、第二次世界大戦後は広島で文化運動のリーダーとなり、新日本文学会に参加。1951年、謄写版の『原爆詩集』を出版。52年に詩集『原子雲の下より』を編集する。「にんげんをかえせ」と叫ぶ原爆被爆を基底にしたヒューマナな叙情は戦後のドキュメンタリーとしても評価が高い。53年結核で死亡。

子どもの取り組み交流会 & サポート学習会

総合病院での無料塾の取り組みや、健康友の会みみはら・南花田・新金岡支部のメリアガーデン(畑)、メリアキッズクラブ(子ども食堂と学習



子どもの取り組み交流会



子どものサポート学習会

支援)、鳳支部のちぐさ子ども食堂、寺子屋ちぐさなど、子どもの取り組み

5日には、交流会で出された意見や疑問を元に、小児科藤井医師による

「子どものサポート学習会」を開催しました。「それぞれ頑張っている取り組みが聞けて良かった」「続ける勇気をもらった」「子どもたちの自己肯定感を高めるヒントをもらった」「連携や助け合える場になれたら」などの感想が寄せられました。「子どもの取り組み」を広げていくこと、交流の場を継続することを確認しました。(健康友の会みみはら事務局 亀井 明子)

みが活発に行われるようになってきました。それぞれの経験や悩みを共有、取り組みを広げていくことを目的に、12月4日「子どもの取り組み交流会」を、2月

第3回 ホスピタルアート ワークショップ

~みんなで創る`伝承のアート`~

日時

4月13日(土) 13:30~15:30

申し込み不要 参加無料

・伝承の樹 図案の発表とワークショップ  
・ホスピタルアート全体の進捗共有

場所

鳳クリニック



鳳クリニックと共に育ってきた大きな榎の樹をご存知ですか?夏は木陰を作り、冬は葉を落として日差しを温もりを届けてくれています。建替計画に伴い、やむをえずの伐倒となりましたが、鳳クリニックの新築と同時にホスピタルアートの

この作品は壁に設置するレリーフとなる予定です。第3回ホスピタルアートワークショップでは、これまでに皆さんからお聞かせいただいた思いを図案に起こして発表いたします。ぜひ、ご意見や更なる想いをお話いただき、作品のブラッシュアップにお力添えいただければ幸いです。



あわせて、ホスピタルアート全体の進捗共有もいたします。皆さんと一緒に、これからの鳳エリアの夢を膨らませる1日にしたいと思っております。

イメージ画像です